

## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成25年11月6日

上場会社名 東部ネットワーク株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9036 URL <http://www.tohbu.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芦原 一義  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役兼常務執行役員 (氏名) 三澤 秀幸 TEL 045-461-1651  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 平成25年12月9日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	6,545	8.9	490	△2.8	511	△2.9	312	△3.2
25年3月期第2四半期	6,012	1.8	504	65.8	526	60.0	323	60.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	57.03	—
25年3月期第2四半期	58.94	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	18,831	14,774	78.5
25年3月期	18,676	14,496	77.6

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 14,774百万円 25年3月期 14,496百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	7.50	—	12.50	20.00
26年3月期	—	7.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	12.50	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成26年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 7円50銭 記念配当 5円00銭

### 3. 平成26年3月期の業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,550	0.6	808	0.7	851	0.8	525	0.8	95.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期2Q	5,749,000株	25年3月期	5,749,000株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	263,309株	25年3月期	263,309株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期2Q	5,485,691株	25年3月期2Q	5,485,770株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料（第2四半期決算説明資料）は、当社ホームページに同日掲載しています。

また、当社は平成25年12月19日（木）個人投資家向け説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
第2四半期累計期間 .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間のわが国経済は、円高修正を背景に外需の採算が改善するとともに、内需につきましても個人消費や消費増税による金利先高観から、駆け込み需要が発生し、緩やかな景気回復基調にあります。

当貨物自動車運送業界におきましては、長引いたデフレによって輸送量が低下していましたが、景気回復にともない消費関連・生産関連・建設関連貨物が増加に転じ上向いてまいりました。しかしながら円安による燃料価格上昇に歯止めがかからず、厳しい経営環境下にあります。

当社はこのような状況下、主力の飲料輸送部門は、国内企業4社で構成されていた荷主が、グローバル展開している米国の新会社になるとともに、当社が標榜する物流のイノベーションが評価され、先進業務を荷主とともに構築する状況となりました。さらに同業他社との業務提携も進め、事業範囲が拡大いたしました。

また、東日本大震災による復旧・復興という国家事業にも、仙台出張所を設け参画しておりますが、国土強靱化法等による事業や、消費増税による先行需要にも対応すべく、セメント輸送は大型化(トレーラー化)による増車対応を行っております。一方で、前述の燃料価格上昇が続き、利益額を押し下げる最大要因となっております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高6,545,759千円(前年同期比8.9%増)、営業利益は新規事業の立ち上げ費用に加えて、燃料費の上昇により490,616千円(前年同期比2.8%減)、経常利益511,258千円(前年同期比2.9%減)、四半期純利益312,865千円(前年同期比3.2%減)となりました。

セグメントの業績につきましては、次のとおりであります。

#### 貨物自動車運送事業

##### (第1営業部門)

清涼飲料輸送は、荷主が外国資本の新会社になりましたが、当社の物流システムが評価され輸送取扱量が増加したことに加え、同業他社との提携もあり増収となりました。

びん・容器輸送は、荷主が新たな軽量びんの出荷や地酒ブームによる酒びん出荷の増加もありましたが、ペットボトル・缶・紙容器等に需要が移行しており、輸送量は微減となりました。

この結果、第1営業部門の売上高は、前年同期比6.0%増となりました。

##### (第2営業部門)

石油輸送は、円安により燃料価格が上昇し、節約傾向が強まり輸送量が減少しておりますが、新輸送システムによる業務提携効果により増収となりました。

化成品輸送は、アジア経済の低迷から輸出が減少いたしましたことに加え、内需も震災による東北圏の出荷が大きく減少いたしましたので、輸送量が減少し減収となりました。

セメント輸送は、首都圏の大型再開発や圏央道の伸長工事等の輸送が増加しておりますことに加え、震災の復旧・復興事業にも参画し、大幅な増収となりました。

その他輸送は、小型車の専属契約業務を行っておりますが、荷主の減車要請もあり、減収となりました。

この結果、第2営業部門の売上高は、前年同期比13.9%増となりました。

以上から、当貨物自動車運送事業の売上高は、関連業務の荷役・保管作業収入を含め、4,481,647千円(前年同期比7.3%増)となり、セグメント利益は348,499千円(前年同期比2.0%減)となりました。

#### 商品販売事業

当事業の主力販売品である石油製品は、新規の大口納入先の獲得に加えて、販売単価の上昇もあり、増収となりました。

セメント販売につきましても、道路、堤防等の公共事業の増加に加えて、民需におきましても金利先高感からマンション建設や大型物流施設の増加が続いておりますので販売量が増加し、増収となりました。

車両販売・リース業等につきましては、大型車両販売が成約し、増収となりましたことに加え、ソフトウェア販売や新規事業のリース業開業による成果も寄与し、大幅な増収となりました。

この結果、当事業の売上高は、1,427,059千円(前年同期比20.4%増)となり、セグメント利益は8,670千円(前年同期比2.3%増)となりました。

#### 不動産賃貸事業

自社提供施設につきましては、一部施設の解約も出ましたが、空室施設が成約し稼働したことに加え、増築による貸出し面積の増加等もあり、増収となりました。

借上施設につきましては、一部施設で貸出し面積の縮小がありましたことと、期中に返還施設ができましたので減収となりました。

この結果、当事業の売上高は、597,210千円(前年同期比2.4%減)となり、セグメント利益は266,665千円(前年同期比0.8%増)となりました。

### その他事業

自動車整備事業は、景気上昇に伴う稼働車両の増加により、営業車の車検業務増加に加えて営業活動が奏功し、車両販社の車検・修理業務を受注できましたので、増収となりました。

損害保険代理業等につきましては、法人の新規大口フリート契約が整いましたことに加え、個人の自動車保険契約も増加いたしましたので増収となりました。

この結果、当事業の売上高は、39,841千円(前年同期比6.9%増)となり、セグメント利益は15,287千円(前年同期比16.6%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は4,577,384千円となり、前事業年度末と比べ148,638千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が104,340千円増加したことによるものであります。固定資産は14,254,041千円となり、前事業年度末と比べ6,643千円増加いたしました。これは有形固定資産が34,743千円、無形固定資産が29,054千円それぞれ減少した一方で、投資有価証券の時価評価等により、投資その他の資産が70,441千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は18,831,425千円となり、前事業年度末と比べ155,282千円増加いたしました。

### (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は1,474,958千円となり、前事業年度末と比べ147,122千円減少いたしました。これは主に支払手形27,622千円、未払金67,949千円、未払法人税等14,001千円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は2,582,066千円となり、前事業年度末と比べ24,874千円増加いたしました。これは主に繰延税金負債が13,465千円、長期預り保証金が10,897千円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は4,057,024千円となり、前事業年度末と比べ122,248千円減少いたしました。

### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は14,774,400千円となり、前事業年度末と比べ277,530千円増加いたしました。これは四半期純利益312,865千円及び剰余金の配当68,571千円により利益剰余金が244,294千円、その他有価証券評価差額金が33,235千円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.5%(前事業年度末は77.6%)となりました。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ104,340千円増加の2,923,938千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は466,671千円(前年同期は629,260千円の収入)となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益512,175千円、減価償却費292,491千円などであり、主な減少要因は、その他の負債の減少額59,357千円、法人税等の支払額217,989千円などによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は293,760千円(前年同期は306,823千円の支出)となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出295,490千円などによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は68,571千円(前年同期は41,143千円の支出)となりました。減少要因は、配当金の支払額によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の経済見通しにつきましては、消費増税の対応策として公共事業を含む経済対策の決定や東京オリンピックの正式決定もあり、景気回復マインドが一段と高まってまいりました。

当社におきましては、引き続き3PL(物流の一括受注)事業の拡大を進めてまいりますとともに、同業他社との業務提携の推進を図り輸送効率を向上させ、収益の構造改革を行ってまいります。加えて、震災の復旧・復興事業の継続と国土強靱化等の国家的施策に当社も引き続き参画し、成果を出して行く所存であります。

また、当社は平成26年3月期(第101期)に創立70周年を迎えますので、100年企業を目指して役職員一丸となり成長路線を導きだして行く所存であります。

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績が概ね年初計画に近い状況で推移していることから、平成25年5月10日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,019,598	3,123,938
受取手形	51,149	12,170
営業未収入金	1,175,502	1,214,185
リース投資資産	—	17,596
原材料及び貯蔵品	28,177	28,817
その他	158,394	184,821
貸倒引当金	△4,077	△4,145
流動資産合計	4,428,745	4,577,384
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,450,010	3,362,196
車両運搬具(純額)	376,902	436,648
土地	7,520,861	7,520,861
その他(純額)	355,680	349,003
有形固定資産合計	11,703,454	11,668,710
無形固定資産		
投資その他の資産	131,699	102,645
投資有価証券	886,780	938,856
差入保証金	1,429,040	1,434,073
その他	99,321	112,654
貸倒引当金	△2,899	△2,899
投資その他の資産合計	2,412,243	2,482,685
固定資産合計	14,247,397	14,254,041
資産合計	18,676,143	18,831,425
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	131,642	104,020
営業未払金	686,942	720,589
未払金	136,045	68,095
未払費用	175,663	173,020
未払法人税等	223,457	209,456
引当金	95,813	88,952
その他	172,516	110,822
流動負債合計	1,622,081	1,474,958
固定負債		
繰延税金負債	1,143,931	1,157,396
再評価に係る繰延税金負債	123,215	123,215
引当金	110,840	112,949

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
長期前受金	59,264	56,489
長期預り保証金	1,105,872	1,116,770
資産除去債務	14,069	15,246
固定負債合計	2,557,192	2,582,066
負債合計	4,179,273	4,057,024
純資産の部		
株主資本		
資本金	553,031	553,031
資本剰余金	527,722	527,722
利益剰余金	13,840,505	14,084,800
自己株式	△195,002	△195,002
株主資本合計	14,726,256	14,970,551
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	220,415	253,651
土地再評価差額金	△449,801	△449,801
評価・換算差額等合計	△229,386	△196,150
純資産合計	14,496,870	14,774,400
負債純資産合計	18,676,143	18,831,425



(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	6,012,249	6,545,759
売上原価	5,331,647	5,865,190
売上総利益	680,602	680,569
割賦販売未実現利益戻入額	399	333
割賦販売未実現利益繰入額	248	350
繰延リース利益繰入額	—	3,235
差引売上総利益	680,753	677,315
販売費及び一般管理費	176,173	186,699
営業利益	504,580	490,616
営業外収益		
受取利息	355	441
受取配当金	10,146	11,421
補助金収入	6,300	—
その他	8,432	11,850
営業外収益合計	25,234	23,713
営業外費用		
支払利息	3,332	3,068
その他	—	2
営業外費用合計	3,332	3,070
経常利益	526,482	511,258
特別利益		
固定資産売却益	11,750	1,621
特別利益合計	11,750	1,621
特別損失		
固定資産売却損	—	705
ゴルフ会員権評価損	300	—
ゴルフ会員権貸倒引当金繰入額	2,896	—
特別損失合計	3,196	705
税引前四半期純利益	535,036	512,175
法人税、住民税及び事業税	217,509	203,987
法人税等調整額	△5,801	△4,677
法人税等合計	211,707	199,309
四半期純利益	323,328	312,865

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	535,036	512,175
減価償却費	275,654	292,491
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,625	67
その他の引当金の増減額(△は減少)	△810	△4,751
受取利息及び受取配当金	△10,502	△11,862
支払利息	3,332	3,068
有形固定資産売却損益(△は益)	△11,750	△916
ゴルフ会員権評価損	300	—
補助金収入	△6,300	—
売上債権の増減額(△は増加)	82,046	△17,299
たな卸資産の増減額(△は増加)	6,696	11,009
仕入債務の増減額(△は減少)	△68,070	375
その他の資産の増減額(△は増加)	2,687	△49,158
その他の負債の増減額(△は減少)	△86,114	△59,357
小計	724,830	675,842
利息及び配当金の受取額	10,473	11,887
利息の支払額	△3,332	△3,068
補助金の受取額	6,300	—
法人税等の支払額	△109,010	△217,989
営業活動によるキャッシュ・フロー	629,260	466,671
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△185,588	△295,490
有形固定資産の売却による収入	12,497	2,441
無形固定資産の取得による支出	△12,990	△469
投資有価証券の取得による支出	△21,427	△706
貸付けによる支出	△2,350	△2,390
貸付金の回収による収入	3,035	2,854
投資活動によるキャッシュ・フロー	△306,823	△293,760
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△41,143	△68,571
財務活動によるキャッシュ・フロー	△41,143	△68,571
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	281,293	104,340
現金及び現金同等物の期首残高	2,252,994	2,819,598
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,534,287	2,923,938

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額(注) 3
	貨物自動車 運送事業	商品販売事 業	不動産賃貸 事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,178,091	1,185,261	611,619	37,277	6,012,249	—	6,012,249
計	4,178,091	1,185,261	611,619	37,277	6,012,249	—	6,012,249
セグメント利益	355,588	8,472	264,588	13,109	641,758	△137,178	504,580

(注) 1. 「その他事業」は、自動車整備業及び損保代理業等であります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書計上額(営業利益)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額(注) 3
	貨物自動車 運送事業	商品販売事 業	不動産賃貸 事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,481,647	1,427,059	597,210	39,841	6,545,759	—	6,545,759
計	4,481,647	1,427,059	597,210	39,841	6,545,759	—	6,545,759
セグメント利益	348,499	8,670	266,665	15,287	639,122	△148,505	490,616

(注) 1. 「その他事業」は、自動車整備業及び損保代理業等であります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書計上額(営業利益)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。